

6月園だより

新年度がスタートし2か月が経ちました。環境の変化や大型連休を経て、子どもたちもすっかり園での生活に馴染んできたように感じます。自分の好きな遊びを見つけじっくりと遊ぶ姿や、友達同士で真似っこし合い“一緒だね”“おんなじ”という気持ちを共有するかのようには笑い合う姿が見られます。時にはおもちゃの取り合いや互いの思いが伝わらず、喧嘩をする場面も見られますが、集団の中で日々気持ちの折り合いのつけ方を学んでいます。先日2歳児クラスの子どもたちが数人で花壇に水あげをしていると「〇〇が使ってた」「返して」「やだ」とカップの取り合いが始まりました。今は自分が使っているという思いから咄嗟に「やだ」という言葉で伝えていましたが、水をあげ終わるとすぐに友達に駆け寄り「いいよ」と手渡していました。「終わったら返してくれたね」と言葉を添えると2人で顔を見合わせ納得した表情を浮かべていました。子どもの言葉には言い表せない気持ちがたくさん詰まっていると感じます。生活や遊びの中で、一人ひとりの子どもの気持ちを受け止め認めながら、自分が大切にされていると感じる心を大切に育んでいきたいと思えます。

<行事予定>

保育参観、面談
ポニー教室（4歳児クラス）
ポニー教室（5歳児クラス）
避難訓練

<7月上旬の予定>

プール開き
七夕
笹送り

<検診のお知らせ>

眼科検診（全園児）
歯科検診（全園児）
耳鼻科検診（3・4・5歳児クラス）
【身体計測】（全園児）

<懇談会>

3歳児クラス懇談会
2歳児クラス懇談会
1歳児クラス懇談会

幼児クラスのままごと遊びの様子をご紹介します

お料理をしているところを見ることは楽しいことです。見たものは早速やってみたいものです。子どもたちはごっこ遊びの世界の中でたくさんの夢をかなえています。

何にでも見立てやすいシンプルな色や形の具材を用意することでイメージが広がります。



パンケーキを焼く練習中です。フライパンを振ることでくるりと返しています。腰に重心をおき呼吸を整えて上手にひっくり返します。



お手玉でコンロの火を作ったりメニューの絵を見て同じように具材を並べたりして再現しています。形になることで友達とイメージを合わせやすくなります。

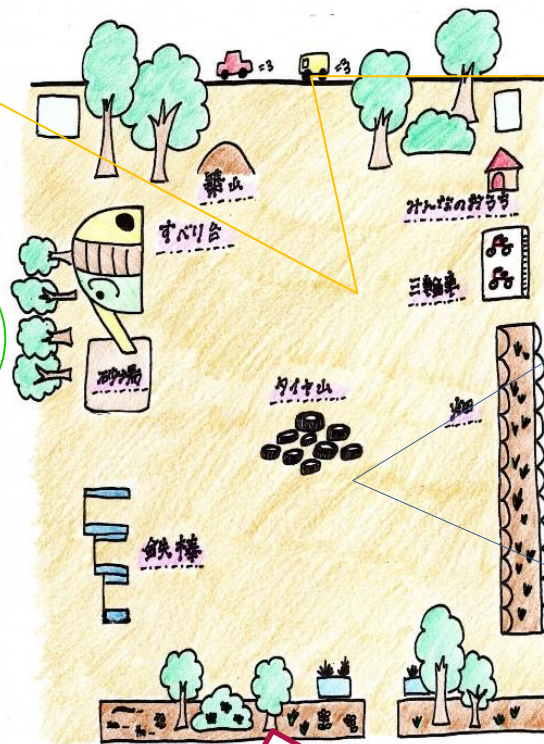


楽しく遊ぶ中で全身や指先を使ったり友達とのコミュニケーションを図ったりしています。

0歳（ありんこ組）
「おそとってきもちいい」

保育園に慣れ園庭遊びも一人ひとり楽しめるようになってきました。園庭にマットを敷き、そこでまずは部屋から持ってきたガラガラなどを振って遊び始めるのですが、お兄さんやお姉さんも園庭で遊び始めると、マットの上にいる子どもたちもハイハイやすり這いで砂地へ出ていきます。すり這いで移動する子どもたちは、初めて砂を手のひらに感じると手を引っ込めたり、知らない感触に驚く姿がありました。「おすなついたね」「ザラザラしてるね」など保育士が声をかけるとその手を見つめる子もいました。繰り返し遊ぶことで今では砂のついた手を握ってみたり石やアリをみつけてつまんでみようとしたりして楽しんでいます。また、座れる子は砂場などでカップで出来た砂の山をつぶしたり、泥の入った入れ物に手を入れて泥の感触を楽しんでいました。園庭で自然物に触れながら様々な感触を楽しんで遊んでいます。

乳児の
園庭遊び



2歳（てんとうむし組）
「よいしょ」

ランダムに重ねたタイヤの山を高這いでよじ登っていきます。登っている途中で、グラッとタイヤが揺れると「おっと」と自分で体を支えてバランスをとりながら進み、上まで登ると両手を離してゆっくりと立ち上がり「見てみて」と嬉しそうに保育士に呼びかける姿があります。また、タイヤの山にマットを掛けて「お家」と家作りをする子もいます。一人の子どもがマットの下に潜り込んで「おやすみ」と寝る真似をすると側にいた子も次々に潜り込んでいます。気持ち良さそうに目を瞑り、しばらくすると「おはよう」と皆起き上がってきて、またタイヤを昇り降りしながらおうちごっこを楽しんでいました。子どもたちのイメージに共感したり、体を使う遊びをたくさん経験できるようにしていきたいです。

1歳（ちょうちょ組）
「みつけた」

お庭に行こうと声を掛けると「あり」「だんご（だんごむし）」と言いながら張り切って園庭に出かけます。蟻やだんごむしの住処を知っていて、靴を履くと花壇に一直線。葉っぱや石をどかしてだんごむしを探します。見つけると「だんご」と言って得意気に手の平にのせただんごむしを見せてくれ、虫が苦手な子も「すごい」と言って拍手してほめています。また、友達の様子をじっと見ている子に保育士がだんごむしを手渡すと「いらない」と返されました。自分でみつけたいという気持ちがあるのかもしれないと気付いて一緒に探していると「いた」と目を輝かせて探し出せたことを喜んでいました。子どもたちの気づきや発見に共感しながらたくさんの感動をみつけていきたいと思えます。